

	課題分析	授業改善策
1年	【基本的な学習習慣】 - 鉛筆の持ち方、ノートの手書き方、机上の整理等が身に付いていない児童がいる。 - 話を最後まで聞かずに、集中が途切れてしまう児童がいる。 【表現力】 - 自分の思いを相手に伝えるように表現できる児童が少ない。	【基本的な学習習慣】 - 掲示物を用いて、視覚的にも分かりやすく指導する。 「相手を見て、一生懸命、うなずいて、笑顔で、終わりまで」の聞き方についての合い言葉を徹底する。 【表現力】 - ペアやグループでの活動を取り入れ、表現する機会を増やす。 - 話型の指導をし、自信をもって表現できるようにする。
2年	【聞く・話す】 - 話を最後まで聞いて、自分に必要な情報を取捨選択することが難しい。 【読解力】 - 題意を捉える、大事なことに注目して読むなどの力が十分に身に付いていない。 【表現力】 - 自分の考えを伝える力に、個人差がある。	【聞く・話す】 「最後まで静かに聞く」など、話を聞く時のルールを徹底する。 - 大事なことを落とさず聞いてメモするなどの活動を多く取り入れる。 【読解力】 - 大事なところに線を引く、全体で要点を押さえる練習をするなどの活動を積み重ねる。 【表現力】 - 順序立てて話す、簡潔に話す等の観点を示し、スピーチをする機会を設けるなどする。
3年	【思考力・判断力】 - 思考力・表現力の個人差が大きい。読解力や目的・意図に応じて伝える力に課題がある。 - 難しいと感じる課題に直面した際に自信がもてなくなり、粘り強く取り組めない姿も見られる。 【表現力】 - 国語の「書く」学習や理科の観察カードを書くときに、視点から外れた内容を書いてしまう場合がある。	【思考力・判断力】 - ペアや小グループで考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、共有し学び合う機会を多く設け、思考力を高めていく。 - スモールステップで課題に取り組ませ、自信をもたせる。 【表現力】 - 視点を明確にさせ、国語の「書く」学習や、理科の観察カード、社会の調べ学習のまとめなど、それぞれが表現したものを、発表したり掲示したりすることで、友達の言葉の使い方や文章の書き方・構成を真似させ、自分の学びに繋げさせる。
4年	【体育】 - 外遊びに積極的でなく、特定の動きに偏る児童が多い。体の柔軟性にも課題がある。 【思考力・判断力・表現力】 - 語彙力が低く、学習した言葉の特徴や使い方について、意味を理解して活用できていない。文章の構成を意識して書くことが苦手である。	【体育】 - 多様な動きを計画的に授業に取り入れる。運動する楽しさを感じさせ、主体的に取り組む態度を養う。 【思考力・判断力・表現力】 - 朝の学級の時間などに、学年をさかのぼって言葉の特徴や使い方の特化したドリル等に取り組む。週に一度、学習の振り返りをする。

5 年	【表現力】 ・自分の思いを表現することに苦手意識がある。表現したくても、どのように表現してよいか分からない児童がいる。 【運動習慣】 ・外遊びに積極的でない児童が多い。体力テストの結果も他学年よりも低い。	【表現力】 ・意見交換の活性化を目指す。言葉のバリエーションを豊かにするために、類義語や対義語に触れる機会を増やす。表現のモデルを示すために、教員が感情豊かに、時に論理的に、様々な表現方法を使って話す姿を見せる。 【運動習慣】 ・運動ができる環境の整備。体育倉庫の用具整備、休み時間には校庭にラインを引き、楽しめる場を提供する。授業では、小さな「できた」を積み重ねられるような指導をする。
6 年	【算数】 ・個人の技能差が大きく、1学期後半のクラス算数の時期には、個人差に合わせて指導することが非常に難しかった。 【表現力】 ・書くことや話し合い活動において、表現することが非常に苦手な児童がいる。得意な児童との差が大きい。	【算数】 ・習熟度別のクラスに分かれ、児童の実態に応じて課題の量や取り組む問題の難易度を調節し、定着を図る。 【表現力】 ・書き方や話型を提示し、まずは書くことや話すことへの抵抗感を減らす。書いた後、交流した後は、個人に評価や感想が還元されるようなサイクルを意識し、指導を計画する。
専 科	【算数】 ・基礎基本の積み重ねができていない児童が多い。1単位時間の学習がつながっておらず、既習事項を生かして問題を解くことが難しいと感じる児童が多い。 【図画工作】 ・テーマに合わせて発想を膨らませながら表現することが難しかったり、表現したいことがあっても技能が不足していたりする。 【音楽】 ・器楽ではタンギング、歌唱では発声等、基礎的な能力が定着している児童が少ない。 【理科】 ・実験の技能（器具の操作）が身に付いていない児童がいる。 ・科学的な思考に基づいて、考えを適切に表現することが難しい。 【外国語】 ・既習の単語や表現を使って会話を続けることができない児童がいる。英語で書かれた単語や文章を正しい発音で読むことが難しい児童が多い。	【算数】 ・基礎的な計算の仕方だけではなく、既習事項で生かせることはないか振り返る機会を作り、自分の考えや友達の発想に触れたり協力して問題を解き合ったりと学びの機会を増やしていく。 【図画工作】 ・テーマについて話し合うことでイメージを共有したり、具体的な表現の仕方について児童同士で紹介し合ったりすることで、どの児童も意欲的に取り組めるようにする。 【音楽】 ・正しい演奏・発声を明確に提示し、常に意識ができるようにしていく。聴き合い等を通して、他者と比べながら自分の音と向き合う時間を多く作る。 【理科】 ・実験器具や材料を十分に用意し、個人または少人数で実験を行い、どの児童も器具を扱える機会を多く設ける。 ・観察・実験の結果をグラフや表にまとめ、それらをもとに考察し根拠を示しながら自分の考えを表現する場面を設定していく。 【外国語】 ・新出表現の練習の際に、既習の単語や表現を繰り返し復習し、会話の中で使う機会を増やす。フォニックスの指導を充実させ、それぞれの文字の発音を定着させる。